

重 要 記 録

1 5歳児健診の開始及び子ども総合相談窓口の開設（4月）

発達に課題のある児童の早期発見・早期支援及び円滑な就学を目的とする5歳児全員を対象とした「5歳児健診」を開始した。また、妊娠、出産、子育て期から学齢期にわたる多様なニーズに対し、それぞれのライフステージに応じた切れ目のない支援を行うため、「子ども総合相談窓口」を開設した。

2 米子市公会堂開館60周年（4月）

昭和33年の開館以来、「文化の殿堂」として長く市民に愛されてきた公会堂が4月に60周年を迎え、記念式典をはじめとする様々な記念事業を開催した。近代日本を代表する建築家・村野藤吾の意匠と実用性との調和が公会堂の魅力であり、第16回公共建築賞・優秀賞（一般社団法人 公共建築協会）に輝き、開館60周年に華を添えた。

3 米子城跡で^{たてぼり}堅堀発見（4月）

米子城跡の発掘調査で、本丸番所跡から二の丸^{ますがた}へと北東方向に延びる堅堀を新たに確認し、4月に公開した。堅堀は、平成28年度に本丸北西側で確認した「登り石垣」と対になるもので、中海側からの攻撃に備え、御殿のあった二の丸を防御していたと考えられる。

4 JR米子駅構内に国際観光案内所を設置（4月）

急増するインバウンドをはじめとした、観光及びMICE等の訪問客への対応力向上を図るため、訪問客からの視認性がより高い場所へ移設するとともに、国際観光案内機能の付加及び機能強化を図ることを目的として、平成30年4月1日付けでJR米子駅構内にある米子市観光案内所を国際観光案内所としてリニューアルオープンした。

5 通称「内堀通り」「外堀通り」と命名（6月）

平成30年5月15日に実施した米子市長定例記者会見において、久米町祇園橋線（一部）～久米町末広町通り線（一部）～湊山公園線（一部）の約650mを「内堀通り」、東町南大工町線～東町南2号線～東町日野町裏線～中町東町1号線～中町灘町橋線の約1855mを「外堀通り」と命名することを発表した。

この取組は、自分たちが暮らしている街に愛着を持つとともに、分かりやすいまちづくりを推進していくため、通りに通称名を命名していくもので、国史跡である米子城跡とその周辺に広がる城下町の存在を想起させ、地域の歴史や文化を後世に継承し市民の愛着や誇りを育むため、当該取組の第二弾として「内堀通り」「外堀通り」を命名した。

6 伯耆国「大山開山1300年祭」記念式典・関連行事を開催（8月）

鳥取県の名峰「大山」が平成30年に開山1300年を迎えるにあたり、8月9日、秋篠宮家の長女・眞子内親王殿下をお迎えし、米子市公会堂で「伯耆国『大山開山1300年祭』」記念式典が盛大に開催されたほか、米子市を含む大山山麓地域の自治体、観光、経済団体等官民が一体となって、様々なイベントや取組を展開した。

7 「第3回『山の日』記念全国大会in鳥取」の開催（8月）

国民の祝日「山の日」の「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という意義への理解を深めることを目的に、米子市・大山町を中心に開催した。米子市では、本市の魅力を県内外へ発信するため、「城山（米子城跡）ミニ登山」や、「城下町観光」及び地元の産品や文化芸能に親しむ「里の恵み感謝祭」などを実施した。

8 「地ビールフェスタin米子」スタート（8月）

角盤町エリア活性化の取組のひとつとして、角盤町商店街振興組合が、毎月プレミアムフライデーに定期開催する「地ビールフェスタin米子」をスタートさせた。角盤町エリア活性化に向けて、米子市も企画段階から積極的に協力し、官民が一体となって取り組んだ。

9 第26回全国消防操法大会 ポンプ車の部で準優勝（10月）

平成30年10月19日、富山市の富山県広域消防防災センターで開催された第26回全国消防操法大会に鳥取県代表として米子市消防団夜見分団が「ポンプ車の部」に出場した。

大会ではチームとして統率のとれた、迅速かつ正確な消防操法が高く評価され、初出場で準優勝の快挙を成し遂げた。また、個人では、西田軍治班長が指揮者として全国第1位の優秀選手賞を受賞した。

10 米子市×米子高専連携プロジェクト 動画「休眠怪獣シロヤマ」完成（11月）

シティプロモーションの一環として、動画制作について全国的に実績のある米子工業高等専門学校放送部と連携し、本市のPR動画の制作を開始。動画のテーマは、本市のランドマーク「米子城跡」を怪獣にするという学生らしいユニークなもので、約7ヶ月間に及ぶ制作期間を経て、動画「休眠怪獣シロヤマ」が完成した。

11 米子市生活排水対策方針の策定（2月）

庁内検討組織「米子市生活排水対策検討プロジェクトチーム」において、本市の生活排水対策の将来構想について検討を行い、汚水処理人口普及率の中期目標（令和8年度末）95%達成に向けて、時間軸の視点とともに各施設の特長、経済性等を総合的に勘案した汚水処理施設の整備方針を策定した。

12 米子市住吉体育館が完成（3月）

米子市住吉体育館は、建物の耐震性と地盤の強度を高める必要があったため、建て替え工事を実施した。開館記念式典では、関係者約60人が完成を祝った。新しい体育館は、鉄骨造2階建、延床面積1,304.93㎡。館内の壁などには、鳥取県産材が多用されており、多目的トイレや授乳室の設置などバリアフリーにも配慮した施設になっている。

13 健康寿命の延伸対策の推進（3月）

地区保健推進員連絡協議会とともに作成した生活習慣病予防の大切さを啓発する「よなご健康ええがん体操」を実施するなど健康寿命の延伸に向けたさらなる取組を始めた。また、キャッチフレーズ（「ずっと元気にエンジョイ！よなご」健康寿命の延伸大作戦）及びロゴマークを定め（3月）、機運醸成に向けての一助とした。

1 4 和田浜工業団地整備事業の完了（3月）

和田浜工業団地内のインフラ等未整備地域（約6ha）の解消にむけて、木質バイオマス発電所を立地するため、当発電所に必要な事業用地の確保及び整備を終え、11月27日に市議会の議決を得て、発電所開発事業者への事業用地（59,781㎡）を売却した。

1 5 米子市手話言語条例を制定（3月）

手話は言語であるとの認識に基づき、手話言語の普及等に関する基本理念を定め、市の責務及び市民等の役割を明らかにすること、手話言語の普及等に関する施策を推進し、障がいの有無に関わらずすべての市民が共生できる地域社会の実現をめざすことを目的として、「米子市手話言語条例」を制定した。

1 6 「中海・錦海かわまちづくり計画」を策定（3月）

中心市街地、米子城跡・城下町観光などの「まち空間」における賑わいを水辺空間である米子港に引き込み、中海・錦海と融合一体化を図り、市民、観光客などが水辺に親しむことが可能となる魅力ある地域資源の創出をめざすため、平成31年3月に「中海・錦海かわまちづくり計画」を策定した。

1 7 「米子市国土強靱化地域計画」を策定（3月）

4つの目標（人命の保護が最大限図られること、米子市及び社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持されること、市民の財産及び公共施設に係る被害の最小化、迅速な復旧・復興）を掲げ、いかなる自然災害が起ころうとも、機能不全に陥ることを避けることができる「強さ」と「しなやかさ」を持った「安全・安心な地域・経済社会」を構築することを目的に策定した。

1 8 「史跡米子城跡整備基本計画」を策定（3月）

米子城跡を市民が誇れる史跡として確実に保存・管理し、後世に継承するとともに、その価値や魅力についてより多くの人に理解を深めていただき、史跡公園として、また観光資源として活用するため、平成31年3月、米子城跡の今後の調査、整備等の基本的な考え方と方向性を示した「史跡米子城跡整備基本計画」を策定した。

1 9 「米子市空家等対策計画」策定（3月）

空家等の発生予防、適切な管理、利活用の促進、除却を4つの柱として、市民の安全確保と生活環境の保全、空家等の利活用を促進し、地域の活性化を目指すことを目的に策定した。